



### 登録商標 とは

特許庁に登録された商標を登録商標といい、これにより付与される権利を商標権といいます。

デコポンは、全国統一糖酸品質基準を持つ日本で唯一の果物の登録商標です。

### 商標権 とは

商標権は、マークと、そのマークを使用する商品・サービスの組合せで一つの権利となっています。

商標法では、他人のために提供するサービスのことを「役務（えきむ）」といい、指定した商品を「指定商品」、指定した役務を「指定役務」をいいます。

この指定商品・指定役務によって、権利の範囲が決まります。

商標権は、マークと商品・役務の組合せですから、同じような商標が2つ以上あったとしても、商品・サービスが異なれば基本的にはいずれも登録になる可能性があります。

出典：平成24年度知的財産権制度入門テキスト(特許庁)

# ラボから新技術

特集 くまもとグリーン農業の推進

その3



## 茶



—牛ふん・鶏ふん混合ペレット堆肥利用技術—

熊本県は、**全国第4位**の栽培面積を誇るお茶の産地です。

主な産地は菊池川や緑川、球磨川など、県下を流れる清流の上流地帯に広がります。

お茶には、カテキン・カロチン・ビタミンC・フッ素など体にいい成分が豊富。最近では、カテキンが肥満防止に役立つ働きがあると言われ、緑茶を飲むことがダイエットにつながると注目されています。

農業研究センターには、茶を専門に研究している**茶業研究所**（御船町）があります。

そこで開発された環境にやさしい技術の1つに「**茶園への牛ふん鶏ふん混合ペレット堆肥利用技術**」があります。

ペレット堆肥を年間約500kg/10aを年2回施用することで、3ヶ年の一番茶収量は同等かそれ以上となり、収益もアップ。

この技術を活用して、地域資源である畜産堆肥を活用して、化学肥料に依存しない茶の生産が期待されています。

### ペレット堆肥とは

家畜ふんを水分調整し、機械で圧縮したものを、耕種農家が持っている既存の肥料散布機を使用できるため、散布作業が容易。



技術の詳細はコチラへ < H25研究成果情報 >

<http://www.pref.kumamoto.jp/uploaded/attachment/78015.pdf>

## イベント情報(8~10月)

詳しくは、各研究所にお問い合わせください。

- 農産園芸研究所、生産環境研究所（合志市）  
作物・園芸部門 成果発表会(8月7日13:30~)
- 畜産研究所(合志市)  
TMR飼料検討会(10月下旬)
- い業研究所(八代市)  
熊本県い草製品品評会審査及び表彰式(10月中旬)
- 果樹研究所(宇城市)  
果樹研究所成果発表会(9月下旬)

# 農研NOW

夏号  
平成25年7月

## 目次

- トピック P.1
- ラボから新技術 P.2
- 特集：くまもとグリーン農業
- ショウガ
- 不知火 P.3
- 茶 P.4
- 豆知識、イベント情報



## 夏にデコポン!?

### カバシマ農政を支える農業試験研究

「稼げる農業」を目指した革新的な生産技術の開発

新たに農研センター内に**3つの施設が建設されます!**

①作物分野  
昨年、日本一になった「森のくまさん」を超えるおいしい県産米をつくるための施設。  
(乾燥・貯蔵、遺伝子工学実験施設の増設)

②園芸分野  
低コスト生産や品質収量アップさせ、くまもと“あか”ブランド(トマト・イチゴ・トルコギキョウ)を確立するための施設。  
(小型複合環境制御施設)

③畜産分野  
全国トップレベルの黒毛和牛の種雄牛をつくるため、また、あか牛の生産基盤を強化するための施設。  
(供卵牛管理施設、直接検定牛運動器施設、牛糞処理施設)

## 全国評価 相次ぐ

### 「農業新技術2013」



「不知火」のMA包装資材(\*1)による長期貯蔵技術(果樹研究所)

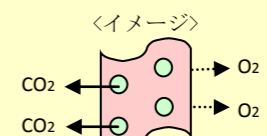
農林水産省が選ぶ、近年の研究成果のうち早急に農業生産現場へ普及する必要がある重要な技術(5つ)の1つに選ばれました。

鮮度保持資材の利用と貯蔵温度管理により、6~7月まで鮮度を保ち、出荷できる技術です。

3~4月における出荷の集中を解消することで、価格の向上を図り、農家の経営の安定につなげることを目的としています。

H23年から果実連で本格的に取り組み、出荷されており、夏にもデコポンが食べることができるようになりました!

(\*1)MA包装資材とは・・・  
フィルムに細かい穴が開いており、果実の呼吸を抑制する環境を作り出し、劣化のスピードを遅らせる包装資材のこと



### 農業技術功労者表彰

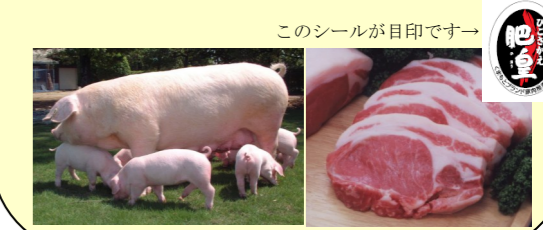


草地畜産研究所  
家入誠二 所長

農林水産省などが主催する2012年度農業技術功労者表彰を、家入所長(草地畜産研究所)が受賞しました。

タンパク質効率の高い「ヒゴサカエひおう肥皇」の生産に寄与し、さらに、飼料自給率の高い豚肉生産技術を開発したことが高く評価されたものです。

熊本産のブランド豚肉「ひごさかえひおう肥皇」は脂肪の甘さと高い生産性が特徴。年間約7千頭が流通しています。ぜひ一度ご賞味ください。



KUMAMOTO Pref. 農業研究センター  
〒861-1113  
熊本県合志市栄3801  
tel 096-248-6411  
fax 096-248-7039  
www.pref.kumamoto.jp/site/493  
noukenkikaku@pref.kumamoto.lg.jp

本紙の内容に関するお問い合わせは、企画調整部 情報課 までご連絡ください

管理部  
総務課  
経理課  
096-248-6412

企画調整部  
企画課  
情報課  
096-248-6423

農産園芸研究所  
作物研究室  
矢部試験地  
バイオ育種研究室  
花き研究室  
野菜研究室  
096-248-6444

生産環境研究所  
環境保全研究室  
土壌肥料研究室  
施設経営研究室  
病害虫研究室  
096-248-6447

畜産研究所  
大家畜研究室  
中小家畜研究室  
生産基礎技術研究室  
飼料研究室  
096-248-6433

茶業研究所  
096-282-6851

い業研究所  
育種・栽培研究室  
加工機能性研究室  
野菜栽培研究室  
0965-52-0372

草地畜産研究所  
0967-32-1231

果樹研究所  
常緑果樹研究室  
落葉果樹研究室  
病虫化学研究室  
0964-32-1723

高原農業研究所  
0967-22-1212

球磨農業研究所  
0966-45-0470

天草農業研究所  
0969-22-4224



くまもと  
グリーン農業

とは・・・

安全・安心な農産物を生産・供給するとともに、熊本の宝であるきれいで豊かな地下水を始めとする恵まれた自然環境を守り育てるため、土づくりを基本として、慣行農法に比べて化学肥料や化学農薬を削減するなど、環境にやさしい農業への取組のことで



グリーン農業で生産された農産物

これまでの取組により化学肥料及び化学農薬の使用量は、平成元年と比較して60%減少し、エコファーマー認定数**全国第4位**(平成25年3月末)となっています。



# ラボから新技術

特集 くまもとグリーン農業の推進

その1



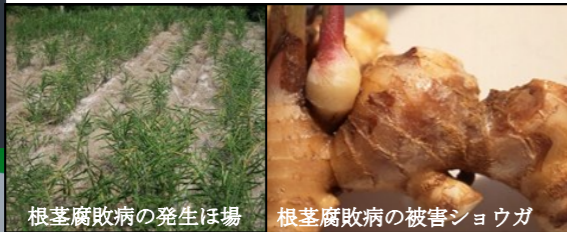
## ショウガ

—オゾン層破壊物質を使用しない防除技術—



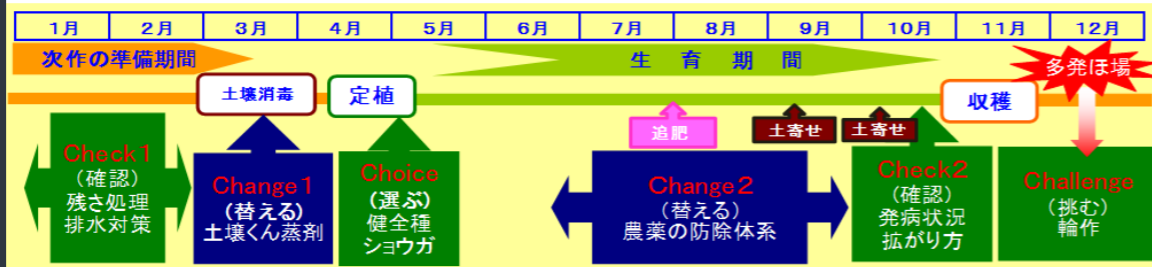
意外と知られていませんが、熊本県はショウガの生産量**全国第2位**なんです。

主な産地は、八代市東陽町や宇城市小川町で、県内の約8割を生産しています。生産量が増えるにつれ、連作障害(根茎腐敗病)が問題となりました。



根茎腐敗病の発生現場 根茎腐敗病の被害ショウガ

その特効薬として「臭化メチル剤」が広く利用されてきましたが、オゾン層の破壊物質に指定され、2012年末で使用できなくなりました。



技術の詳細はコチラへ <H25農業の新しい技術>  
<http://www.pref.kumamoto.jp/uploaded/attachment/78003.pdf>  
<http://www.pref.kumamoto.jp/uploaded/attachment/78351.pdf>

臭化メチルを使用しないショウガ栽培マニュアル  
[http://www.naro.affrc.go.jp/narc/contents/post\\_methylbromide/index.html](http://www.naro.affrc.go.jp/narc/contents/post_methylbromide/index.html)

そこで開発されたのが、「臭化メチル剤を使用しないで防除する技術」

この技術を開発したのが、**生産環境研究所(病害虫研究室)**です。

この技術は、“**薬剤防除技術**(農薬等)”と“**耕種的防除技術**(排水対策等)”を組み合わせた総合防除技術です。

この技術を活用して、安全で安心な熊本県産ショウガの安定生産が期待されています。



生産環境研究所  
病害虫研究室 森山係長

# ラボから新技術

特集 くまもとグリーン農業の推進

その2



## しらぬい 不知火

—ミカンハダニを天敵で防除する技術—



「不知火とデコポンの違い」知っていますか?

デコポンは、熊本県果実連が所有する**登録商標**(→裏面「豆知識」参照)で、不知火のうち基準(糖度13度以上・酸度1度以下)をクリアしたものだけが「デコポン」という名前を名づけることができるんです。高品質の証ですね。



ちなみに・・・

ひのゆたか 県が育成した肥の豊(不知火×マーコット)も同基準をクリアすると、デコポンと呼ばれています。

熊本県は不知火の**生産量全国第1位**。全国の約30%を生産しています。

不知火につく害虫の1つにミカンハダニがいます。ミカンハダニは葉や果実に寄生し、果実の品質を低下させ、特に施設栽培で問題となっています。

近年、ミカンハダニは、農薬が効きにくくなってきており、いかに防除するかが課題となっていました。

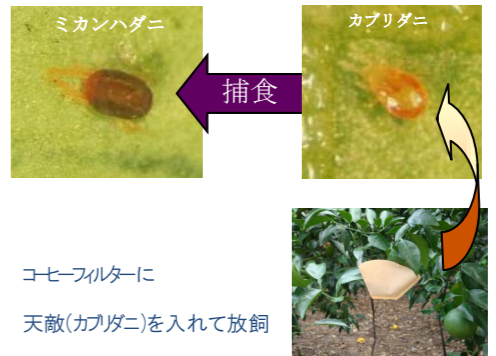


天敵放飼にご協力頂いた  
園主さんと指導員

そこで開発されたのが、「**加温施設「不知火」のミカンハダニに対するスワルスキーカブリダニの収穫前防除への利用**」。

この技術を開発したのが、**果樹研究所(病虫化学研究室)**です。

ミカンハダニを食べる天敵(スワルスキーカブリダニ)を放飼し、防除するという技術です。



コーヒフィルターに天敵(カブリダニ)を入れて放飼

天敵を利用するため、農薬を散布する回数を減らすことができ、**環境にやさしい農業(くまもとグリーン農業)の推進**に大きく貢献する技術です。



果樹研究所  
病虫化学研究室  
杉浦研究参事

技術の詳細はコチラへ <H25農業の新しい技術>  
<http://www.pref.kumamoto.jp/uploaded/attachment/78128.pdf>

熊本のきれいで豊かな地下水を始めとする自然環境を守るために、**くまもとグリーン農業の推進**が必要です。

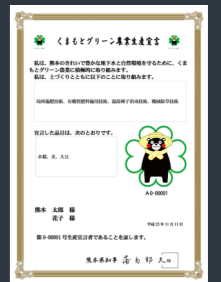
くまもとグリーン農業の表示マーク

生産宣言を行った農業者等がその取り組みに応じて農産物に使用できる



クローバーの緑色が多いほど化学肥料や化学合成農薬の削減がすすんでいます。

あなたも生産宣言してみませんか



お問い合わせは、  
最寄りの  
地域振興局もしくは農政事務所  
農業普及・振興課へ